

うなざわばたいちりづかひがしづか
 134 鵜縄沢端一里塚東塚



指 定 市 史 跡 昭和45年10月1日
 所在地 岩 村 田
 所有者 関 口 芳 幸



鵜縄沢端の一里塚は、中山道の関係遺構として交通史上貴重なものである。慶長7年（1602）中山道に宿駅制度が実施されたころの構築と考えられるが、詳しくは不明。その後、中山道の道筋が岩村田宿新町（住吉町）に向かって付けかえられたため、一里塚は道筋からはずれている。

東塚周囲約20m、頂面直径1.5m、高さ約4mは近年掘削されて、原形を崩しながらも現存するが、原形をほぼ残していた西塚周囲約20m、頂面直径1.5m、高さ約4mは、近年になって惜しくも削り去られている。